

仏教企画通信

発行日 | 令和6年6月1日

76号

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0116
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
Tel. 042-703-8641
Fax. 042-782-5117

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣
編集 | 加藤順子

Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

人びとの暮らしに根付いた信仰

私の家は東京と群馬県の山村、上野村にあって、この二カ所を行ったり来たりしながら暮らしている。上野村は村の面積の95%が森林で、私の家がある集落も森のなかに包まれている。

この村で一番多く祀られているのは山の神である。森のなかのいたるところに、山の神を祀った祠や岩屋があると、いつてもよい。次に多いのは水神で、水神を祀ったところにはたいてい不動明王か弁財天が安置されている。私の家のある集落が使っている山の湧き水がこぼれ落ちるところにも、不動明王の石仏が祀られている。

山の神信仰や水神信仰は面白い。たとえば山の神は森を護っているとされているが、森のなかで山の神にであったという話は聞かない。伝承されている話のなかでは、大昔に山の神にであった人がいるけれど、本当に山の神はいるのかと聞かれたら、村人の誰

共同体の信仰と個人の信仰について考える

暮らしが紡ぎだす無事な信仰

内山節

もが「さあ、どうだろう」とも言う他ないのである。それは水神と同じことである。山の神や水神には教義らしい教義も存在しない。森を護

っているとか水を護っているとかいうだけで、経典のようなものも、真言、陀羅尼のようなものもない。さらに組織も存在せず、だからこの信仰に賛同して入信しようとしても、話をもっていくところもないのである。これらの面からみれば、きわめて脆弱な信仰である。

ところが村で暮らしていると、山の神信仰や水神信仰は強固なもののように感じられてくる。山に入るときには山の神に挨拶をしてから入り、山から出てきたときには無事

に戻れたことへのお礼を述べる。特に山の木を切るときには切らせて欲しいとお願いし、切り終わると森の再生を約束してお礼を述べる。

森のなかを歩いてみると、突然一本だけ大木が残されている場所に出会うことがある。上野村だと栃の木のことが多い。かつて伐採に入った人が、その木だけ切らずに残しておいた。その結果、森の王者のような大木になっているのである。そういう木は、村人ならみればすぐにわかる。それは、山の神が森を歩いているときに休憩する木なのである。山の神が休憩する木を切ってはいけない。そういつて守られ、山の神の大祭もつづけられている。

教義や組織がしっかりしたもの、山の神信仰も水神信仰もきわめて脆弱な信仰である。ところが村の暮らしのなかに深く根付いているという視点からみれば、これらは強固な信仰なのである。その理由はこれらの信仰が、個人の信仰ではなく共同体の信仰だからである。だから、共同体とともに暮らしている人々にとつては、それは守らなければいけない信仰でありつづけている。



上野村の集落には、祭りや伝統文化が今も受け継がれている。

共同体を護る寺、共同体に護られる寺

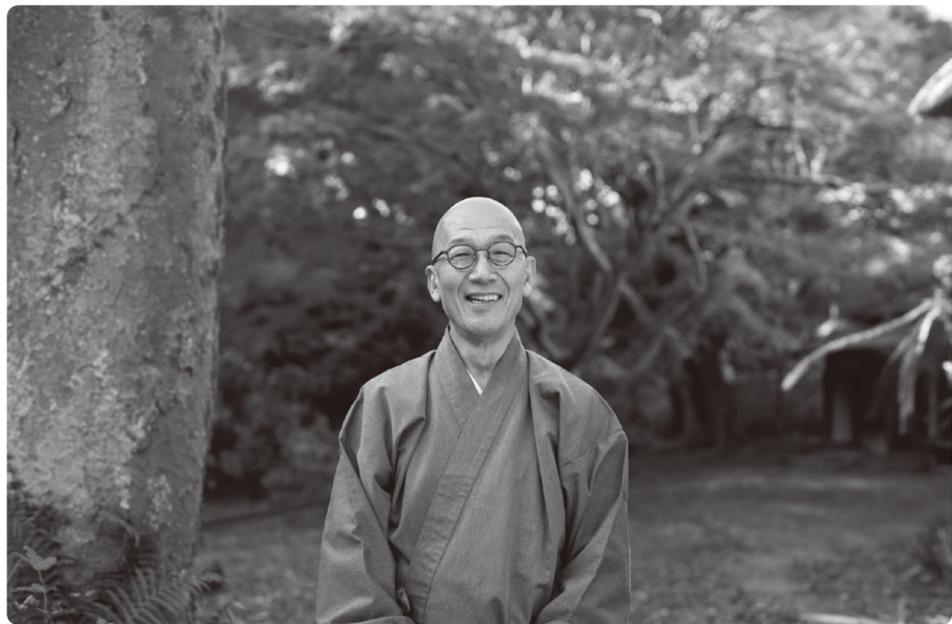
このありようは、村の寺に對してもいえる。上野村には天台宗が一カ寺、曹洞宗が三カ寺あるが、いまではどの寺も無住寺で、村人の檀家組織

が寺の維持管理をしている。寺の門には「〇〇宗×山△△寺」という表札がかかっている。村人はどの寺が何宗かはよく知っている。ところがその宗派の思想には、さして関心がない。その寺が何宗に属するのは、どうでもいいことなのである。村の寺は宗派のものではなく、村の寺、共同体の寺なのである。共同体の寺だから、村人は寺とともに暮らしてきた。私の家のある集落は、私以外は全員が天台宗の寺の檀家である。昔から村では、「春伐」「秋伐」といって、春と秋に収穫物を集落で集め、寺に奉納する仕組みがあった。上野村は水田をもたないから、春と秋に豆を奉納したらしい。もつとも、あるときから奉納するものはお金に変わっていった。集落としてお金を集め、寺に奉納してきたのである。私がこの集落で暮らすようになってすぐの頃、一人の長老から寄り合いである提案があった。それはこの仕組みを終了にするというものだった。その長老が言うには、一人一人が奉納するのは自由だ。だが集落として奉納するのは終わりにすべきだ。なぜなら、かつてはその寺に住職がいて、村の寺を守ってくれていた。だからそれを共同体として支えてきたのだ。ところが代が変わり、住職は村からいなくなった。共同体の寺を守るといふ役割が放棄されたのだから、檀家として奉納するのはよいが、共同体として奉納するのは終わりにすべきだ。長

僕自身も、子どもの時から抱えた疑問に対して、修行や坐禅に本気で取り組む必要がありました。悩みや不安というものは、探せばいくらでもあるわけで、考え始めたらそれ自体がまた悩みに変わってしまうものです。それよりもまず存在していること自体が

**苦しみの公式と、
幸せの公式**

兵庫の安泰寺に行ったらどうか」と助言していただいたんです。安泰寺では、お米や野菜、味噌、醤油など生活を支えるものを自分たちで作っています。その生活様式が自分に合っていると感じましたし、資格に関係なく純粹にずっと修行ができそうだと思っただけです。それまでは臨済宗で修行していましたが、曹洞宗の教えには安泰寺で初めて触れました。道元禪師や安泰寺の住職だった澤木興道老師、内山興正老師の教えはとても深く、個人的にとっても惹かれました。安泰寺で6年間修行をして、そして禅の指導のためにアメリカへ行く機会に恵まれました。アメリカでの18年間は実にさまざまな人たちと出会い、学びの多い日々でした。ね。坐禅をすることが両親に理解されなかったり、禅を学ぶことで宗教的に家族と軋轢が生じた人も少なくありませんでした。それが、それでもギブアップせずに仏教を求めた熱心な人々をたくさん見てきました。彼らからずいぶん励まされましたね。



「愉快」であることを大切に、そのことで結果的に不安がたいしたものではなく、道があるんです。いつ死ぬかわからないのに不安にかまけてまごまごしている暇なんてありません。生きていること自体に意味があるんだから、何があっても大丈夫なんです。苦しみの公式は、心の痛みを抵抗することで大きくなってしまふんです。人

は痛みを直面すると拒絶や抵抗をしますが、残念ながら抗うことで苦しみが掛算的に増していく。【痛み×抵抗＝苦しみ】です。逆に何か快感を感じた時も、人はその快感に執着してしまふんです。そうすると幸せは減ってしまふんです。【快感÷執着＝幸せ】です。苦しみを減らし幸せを増やすには、痛みを「抵抗」

僕自身も、子どもの時から抱えた疑問に対して、修行や坐禅に本気で取り組む必要がありました。悩みや不安というものは、探せばいくらでもあるわけで、考え始めたらそれ自体がまた悩みに変わってしまうものです。それよりもまず存在していること自体が

**愉快と本気を
大切にして**

「執着」しないことです。痛みは痛みとして受け入れ、快感も快感としてただ受け入れる。【抵抗】や【執着】といった余計なことをしないことが、実は誰かが苦しみを減らし幸せを増やしたいと思いが逆のことにしてしまっているわけです。つまり、人間は放っておいたら痛みへの抵抗や快感への執着といった余計な「努力」を自然にするようにできているんです。だから、そういう生得の「癖」を手放すにはどうしても、自分がそういうことを無意識にしているんだという「自覚」が必要になります。そして、実際に抵抗や執着を減らすという修行の道を歩き始めるわけです。これは人間として本当に成長する道だと思えます。仏教は人間がブツダへと成長していく道を教えているんです。

僕自身も、子どもの時から抱えた疑問に対して、修行や坐禅に本気で取り組む必要がありました。悩みや不安というものは、探せばいくらでもあるわけで、考え始めたらそれ自体がまた悩みに変わってしまうものです。それよりもまず存在していること自体が

**仏教に
ご縁をいただいて**

僕のようにお寺をもたず、葬式や法事もせずに僧侶が続けていることで、僧侶の友人から「奇跡のような人だね」と言われたことがあります。日本の大多数の僧侶の在り方を考えると、確かにその通りかもしれません。僕の場合は子ども頃から、組織の一員として生きることや、誰かの指図に従う生き方はどうもできそうに思っていました。僕が生まれ育った故郷は住友系の会社がとても多い地域で、私の父も含めて同級生たちの親は多くがそういう会社に勤めていましたし、時代的にもサラリーマンになることが当たり前のことでした。しかし僕は10歳の時に「死ぬとはどういうことなのか」「自分が自分であるのはなぜなのか」という疑問を抱える体験を思いがけずしてしまいました。誰とも替えの効かない自分の

僕自身も、子どもの時から抱えた疑問に対して、修行や坐禅に本気で取り組む必要がありました。悩みや不安というものは、探せばいくらでもあるわけで、考え始めたらそれ自体がまた悩みに変わってしまうものです。それよりもまず存在していること自体が

**「学」は
「変わる」
こと**

人生を手探りで生きていかなくはならない、だとしたら父のようなサラリーマンになることは自分にはとても無理だなと思いました。社会は、そういう根源的なことは問わないことを前提に動いていて、そんな疑問を考え始めたら立ち止まることになってしまう。だから、考えてみようがないし、そんなことは意味がないと封印するか後回しにする。そうやって会社でバリバリ働ける堅気な人間になっていくわけです。でもそれは自分には到底できそうにないし、かと思えませんでした。そこで、貧乏でもいいから好きなことを研究する者になろうと思っただけですが、ひょんなことから大学院生のときに仏教と出会いました。得度することを決めました。得度するを受けていた老師に「なるべく厳しい修行ができるお寺を紹介してほしい」とお願いしました。その時「君は住職になるつもりじゃないんだから、百姓しながら修行をしている

(取材)やなぎさわまどか (撮影)羽柴和也

老の意見はこのようなものだった。寄り合いでは議論の末、この長老の意見が通った。村には共同体の寺があり、共同体のなかに溶け込んだ仏教があったのである。それは宗派の教えではなく、死者たちの冥福や村の無事を仏に願う仏教だった。それは、水神を祀る場所に仏が安置されているように、神と仏が融合した世界でもあった。上野村には三笠山という山があるが、そこは神の世界でもあり、切利天がつくる極楽でもありと伝えられている。

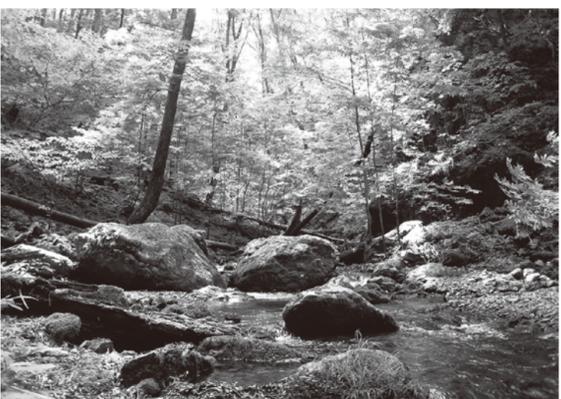
平和な信仰とは

すでに存在する共同体のなかに宗教が浸透する過程では、宗教の信仰化が起こる。宗教



三笠山を水源とする清流・神流川。上野村ではその環境維持に長く注力してきた。

が共同体の信仰になるといつてもよい。そして、この変容を受け入れてきたのが日本の仏教だった。宗教としての教義や組織にこだわらず、住職たちも共同体のなかに溶け込んでいった。だが世界をみれば、このような変容を認めなかった宗教もある。ヨーロッパでは1000年代あたりから農村にキリスト教が浸透していくが、その結果生まれた農村キリスト教は共同体のキリスト教であり、共同体の人々の暮らしのなかで土着化したキリスト教だった。このキリスト教は、キリスト教の教義や組織からみれば逸脱したキリスト教でもあったのである。キリスト教は基本的には共同体の信仰ではなく、個人の信仰である。ローマ法皇はしばしば土着化したキリスト教を異端として認定し、十字軍を派遣してこの逸脱したキリスト教徒を弾圧した。私がかつて訪れたフランスの旧オック地方では、十字軍の派遣によって「異



神流川は、豊かな恵みをもたらす神流川は、名水百選にも選ばれている。

端」のキリスト教を信仰していた村人たちが焼き殺されていく。その数は5万人とも20万人ともいわれているが、キリスト教では異端は火あぶりの刑に処せられた歴史がある。個人の信仰は、教義への帰依と組織への服従を求めたのである。だからここからは、戦いの論理も生まれてくる。教義に帰依するためには、誤った教義を広める者たちと戦わなければならない。教義を実現するための組織を誹謗する者たちとも戦う必要がある。そうやって正しい教義と、それを実現するための組織を守るということが信者たちに求められるようになった。今日でも新しく生まれた個人の信仰団体のなかからは、きわめて好戦的な態度をみせる組織が発生することがあるが、教義と組織を柱にして個人を結集する宗教組織からは、たえずこの

問題が発生する。宗教は根底に平和への意志をもっているのかといえ、そんなことはない。異端や他宗派をたたくことを正義だとする思惟があるかぎり、そこには好戦的なものが秘められている。ところが宗教が信仰化しながら人々の暮らしのなかに入ったとき、そこから生まれていく村の信仰や町の信仰は、生死を越えた無事や村や町が無事を祈る願いとともに展開していた。ここには無事な信仰があり、それを平和というのなら平和な信仰があった。このような視点からみていくと、私は、そういうものをつくりだしていったかつての民衆の力に、敬意を払いたくなってくる。



内山 節(うちやまたか) 哲学者。1970年代から東京と群馬県上野村の二拠点生活。元立教大学21世紀社会デザイン研究科教授。近著に『内山節著作集』(全15巻、農文協)『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』(角川新書)他多数。

「学」は「変わる」こと

仏教とのご縁を活かし、自分らしくあれ

(取材)やなぎさわまどか (撮影)羽柴和也



通夜の法語



通夜の法要

た宏幹先生の答えは、「いろいろの見方があるが、私が感じるの、何もにも何事にもとらわれない、実にひょうひょうとした生き方」だ。……ひょうひょうという言葉は、広辞苑には幾つかの意味があるけれども、その中で「世俗にこだわらず超然としてつかみどころのないさま」という意味を挙げて、良寛様の生き方はまさにこの意味が



最後のお別れ

びつたりだと書かれております。そして、このひょうひょうという言葉は、宏幹先生ご自身の晩年、あるいは私どもが教えを受けたお姿にも当てはまるかなと思います。また、宏幹先生は良寛様の別の歌を引いてもおられます。夢の世に かつまどろみて 夢をまた 語るも夢も それがまにまに

この歌を引いた先生は、良寛様が多くの人に慕われる理由の一つに、師が人生を夢、あるいは夢のようなものと捉えていることを挙げておられます。宏幹先生、本当にありがとうございました。また夢の中でお会いできることを願っております。



喪主 藤木隆宣 挨拶

山川草木悉皆仏性

そのまにまに
喪主・藤木隆宣 本葬儀の挨拶より

先生は、2月26日にお亡くなりになりましたけれども、ちょうどその一週間ぐらい前でしょうか、先生のところへ伺って、ご生前中のお姿を録画したいと申し上げましたら、ニコニコ笑っておられました。そのときに先生は一枚の絵は

がきをご覧になりながら、随分長いことお話しされました。その絵はがきというのは、草原があって、月があって、そしてそこにはトナカイ、それからウサギ、右側には木がありました。「藤木さん、これ何の木だと思っ？」というので、「これはもみの木でしょうか」と答えましたら、「うん、うん」というような感じでおられました。



若い僧侶方に担がれ出棺



参列者の方々

それから先生はたくさんのお話をされました。その時は、先生がいま、山川草木悉皆仏性の世界をそのまま私にお話しなさっているな、という感じでした。26日の6時50分ごろでしょうか。訃報に触れるとは思いませんでしたけれども、先生のご一生は学問も、生き方としても、生き切られた、そういうご一生ではなかったかと思えます。



兄のように、父のように、佐藤憲昭先生 通夜の挨拶より
昭和50年8月、イギリスのランカスター大学で第13回国際宗教学者会議が開催されました。佐々木先生は英語で発表するために参加され、また、佐々木先生の恩師である古野清人先生は、当時、日本宗教学会会長でしたので、会長の職務として参加されました。古野先生と佐々木先生の子弟コンビは羽田空港から出発されたのです。出発に先立ち、見送りの私たちと挨拶が終わると、古野先生は出発方向とは違う方向へすたすたと歩いていかれました。それに気付いた佐々木先生は大急ぎで古野先生に追い付き、正しい方向へと導いていかれました。

……しかし、当時の私は結婚する意思がまるでありませんでした。問題はどのようにお断りするのかわからないことですが、あれこれ考え抜いてもうまくいきません。佐々木先生は「とても良い話だから事を進めなさい」と言われま。本当に困りました。そこで佐々木先生には、「二人の体重を合わせる」と百何キロになつてしまふので、結婚はできません」という全く意味不明の言葉を発する始末です。困った極地にあった私は佐々木先生にお願いをしてご同行いただき、B先生にお呼び申し上げたのです。そのとき、先生は高価なウイスキーを手土産に持ってこられ、まるで私の父親のような役割を演じ

兄のように、父のように、佐藤憲昭先生 通夜の挨拶より
昭和50年8月、イギリスのランカスター大学で第13回国際宗教学者会議が開催されました。佐々木先生は英語で発表するために参加され、また、佐々木先生の恩師である古野清人先生は、当時、日本宗教学会会長でしたので、会長の職務として参加されました。古野先生と佐々木先生の子弟コンビは羽田空港から出発されたのです。出発に先立ち、見送りの私たちと挨拶が終わると、古野先生は出発方向とは違う方向へすたすたと歩いていかれました。それに気付いた佐々木先生は大急ぎで古野先生に追い付き、正しい方向へと導いていかれました。

したが、見送りの私たちは、イギリスでは佐々木先生はきつと古野先生の行動に苦勞されるに違いないと心配したものです。
ランカスター大学での佐々木先生の学会発表は大変に好評であったようです。この学会には、ランカスター大学より名誉学位を受けるために三笠宮殿下ご夫妻が出席されており、佐々木先生の発表の際にはお二人が真ん前で聴講され、発表が終わると、殿下は、「佐々木さん、大変良かったです」とおっしゃったそうです。これがご縁で、先生は東京にあった殿下の研究所に招かれて発表を、昼食を共にされたということがあります。

……しかし、当時の私は結婚する意思がまるでありませんでした。問題はどのようにお断りするのかわからないことですが、あれこれ考え抜いてもうまくいきません。佐々木先生は「とても良い話だから事を進めなさい」と言われま。本当に困りました。そこで佐々木先生には、「二人の体重を合わせる」と百何キロになつてしまふので、結婚はできません」という全く意味不明の言葉を発する始末です。困った極地にあった私は佐々木先生にお願いをしてご同行いただき、B先生にお呼び申し上げたのです。そのとき、先生は高価なウイスキーを手土産に持ってこられ、まるで私の父親のような役割を演じ



葬儀委員長 島園進先生

昔の友を数ふれば

島園進先生 葬儀の挨拶より

……私にとって佐々木宏幹先生は紛れもなく恩師ですが、同時にまた兄貴のような存在でもあり、また、父親のような存在でもあったような気がします。霊樹宏幹和尚の寂定中の平安を心からお祈り申し上げます。

……佐々木先生は「仏教人類学の諸相」という本を最後に出版されたわけですが、そ



ご参列の僧侶方

手を折りて 昔の友を数ふれば なきは多くぞ なりにけるかな
……最晩年の宏幹先生を思わせる言葉が「仏教人類学の諸相」の中にはたくさんあります。その中で一つご紹介したいのは、良寛様に触れた文章で、ひとつの歌を引いておられます。

……私にとって佐々木宏幹先生は紛れもなく恩師ですが、同時にまた兄貴のような存在でもあり、また、父親のような存在でもあったような気がします。霊樹宏幹和尚の寂定中の平安を心からお祈り申し上げます。

……佐々木先生は「仏教人類学の諸相」という本を最後に出版されたわけですが、それといたしまして、そこに私は序文を書かせていただきました。それをとても喜んでいただいで、またお会いできるのではないかと思っていた次第です。

……佐々木先生は「仏教人類学の諸相」という本を最後に出版されたわけですが、それといたしまして、そこに私は序文を書かせていただきました。それをとても喜んでいただいで、またお会いできるのではないかと思っていた次第です。

編集後記

藤木隆宣

5月18日に高校の同窓会が開かれた。昭和38年卒なのでなんと卒業して61年になる。年齢は早い人で80歳になる。私は4月生まれなので80歳に到達した。しかし実感はあまりない。

昭和38年、北陸地方は豪雪に見舞われ、北陸線が2週間以上止まった記憶がある。私はその頃旧武生市(現越前市)のお寺にいたので毎日屋根の雪下ろしをしたことを思い出した。雪下ろしが終わって一休み時には鏡餅を焼いて頂いた記憶がある。とてもおいしかった。

大学受験の年だったので、私は金沢市で受験予定だったが車が止まったので受験できずなんとか入学できたこと思い出した。今回の同窓会には遠回りになるが東京駅から朝の8時11分発の「かがやき」に乗って福井駅まで行った。

帰りは大宮近くに住んでいる友人と一緒に帰った。久しぶりなので色々な話をしたが、ご長男は現在アメリカにご家族で住んでいてホンダの工場に働いているようだ。そのご長男がアメリカに行く前に丸岡にある先祖代々のお墓にお参りしてからアメリカに行きたいと連絡があり、急遽福井駅で待ち合わせて一緒にお墓参りを済ませたようだ。

私が随分しつかりした息子さんだねと言うと、実は銀行員だった頃から田舎に帰ったときには必ずお墓参りだけは欠かさず家族全員で行くのが我が家の習慣になっているので、長男がアメリカに行くときもそのことが当たり前になっていたので父親からは一言も言わないし、アメリカ行きが決まって息子さんからお墓参りに一緒に行ってくれと言われたようだ。

こどもの教育のお手本みたいな育て方で感心した。この度はたまたまお墓参りになったが他のお家でもいろいろな例があるかと思う。日本では虐待、少子化が危機的な状態だ。政府や地方地自体がそれぞれ地域で特徴を出しながら少子化対策に乗り出しているが、なかなか名案はないようだ。核家族化が進んで家庭教育が乱れている時代とも考える。今新聞などを賑わしている事件をみると信じがたいことが起きている。世相から見えて来る日本が危ない。さてお寺が今の世相をどう見ているか試されているようだ。

人間が育つには環境が大事だと言われて久しいが、なかなか名案が出てこない。しかしお寺の存在は環境からみてもその存在は大きい。お寺に行くとか何か落ち着くとかよく言われる。お寺のたまたまは不思議な雰囲気があるようだ。特に本堂は。お寺に住まいする私達よりも敏感に思われているようだ。それぞれの寺がお寺が立地条件を生かしての檀家の方がた以外にも解放されると意外と歓迎されると思う。私は駒澤大学の児童教育部(サークル)に

4年間在籍していた。この間毎週日曜日には日曜学園に通い、園児確保のために路傍伝道などして小学生を中心に30人ぐらいたる私の場合には中野区の保養寺日曜学園に通って来ていた。夏には夏季伝道で全国を12ヶ所位に分けて約1か月間お寺様がセットして下さった保育園、幼稚園、小学校では盆踊りやおとぎ狂言、婦人会では盆踊りを青年会ではフオークダンスを指導していた。このような活動も社会の変革に伴いできなくなり特に日曜学園は学習塾の勢いに負けて久しい。

さて話をお寺の活動に戻したい。私のお寺では「寺カフエ」を考えている。寺族が中心になって知り合いの方に加勢して頂いて週一での開催を考えている。幸いにも佐々木宏幹先生から頂いた本「佐々木宏幹文庫」が充実している。その本がある雰囲気は不思議と落ち着くものだ。そこに集う方がたとの交流が自然発生的に生まれてくることを夢見ている日日だ。

虐待、少子化が危機的な状態だ。政府や地方地自体がそれぞれ地域で特徴を出しながら少子化対策に乗り出しているが、なかなか名案はないようだ。核家族化が進んで家庭教育が乱れている時代とも考える。今新聞などを賑わしている事件をみると信じがたいことが起きている。世相から見えて来る日本が危ない。さてお寺が今の世相をどう見ているか試されているようだ。人間が育つには環境が大事だと言われて久しいが、なかなか名案が出てこない。しかしお寺の存在は環境からみてもその存在は大きい。お寺に行くとか何か落ち着くとかよく言われる。お寺のたまたまは不思議な雰囲気があるようだ。特に本堂は。お寺に住まいする私達よりも敏感に思われているようだ。それぞれの寺がお寺が立地条件を生かしての檀家の方がた以外にも解放されると意外と歓迎されると思う。私は駒澤大学の児童教育部(サークル)に

2024秋・お彼岸 特集予告

2024年8月30日 発刊予定

曹洞禅グラフ

170号

画家・上條陽子さんインタビュー 私がガザで見たこと

戦争と芸術、ガザへの平和の祈り

かみじょう・ようこ

現代美術家。1937年横浜市生まれ。1978年、洋画界の芥川賞といわれる安井賞を女性として初受賞。1999年、パレスチナを訪れ現地の惨状に触れたことを機に、帰国後、難民キャンプやガザ地区で子どもたちに絵を教えるアート活動を開始。2001年「パレスチナのハートアートプロジェクト」設立。以後、現地での絵画指導を重ねる他、パレスチナの芸術家たちを日本に招聘するなど芸術を通じた支援を継続。2022年文化庁長官表彰。2023年神奈川文化賞受賞。

手まり学園

寄附者御芳名(敬称略)

R6.2.1~R6.4.1

Table with 3 columns: 所在地, 寺院名(個人名), 金額. Includes entries for 神奈川県 青木義次 (125) 5,000, 千葉県 吉岡大龍 50,000, etc.

てまり学園にご支援をいただき誠にありがとうございます。

仏教企画発行の刊行物

(*部数により割引があります) すべて税別価格です

- 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円*
『まんが問答一期一話』 文平和宏昭 まんが垣内敬遠 1,200円*
『葬送のしおり』 長井龍道著 30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著 500円*
『曹洞宗檀信徒經典』 須田道輝解説 300円*
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 靈元丈法著 140円*
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 靈元丈法著 150円*
俳句随想 玉崎千鶴子 その永遠の世界を探って 500円
『観音の咒 大悲心陀羅尼』 渡辺章悟著 500円
『宗教人類学の地平』 佐々木宏幹編著 2,300円
『仏教人類学の諸相』 佐々木宏幹著 2,300円

*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

お申込み

〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客様番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号でも可能です。

曹洞禅グラフ

発行日

Table with 2 columns: 発行日, 価格. Includes entries for 春 彼岸号 2月10日, 夏 お盆号 5月31日, etc.